



エコのわスタイル

作る人、活ける人、眺める人、 そして地球環境にも豊かさを

エコのわスタイルは、環境をテーマに区民や区内の企業、団体の活動や想いなどを紹介します。

都内でもめずらしい無農薬・減農薬のお花(オーガニックフラワー)を豊島区西巢鴨で販売している古庄佳苗さんに、取扱うお花や育てる農家への思いなどをお伺いしました。

ふるしよ かなえ



フラワーショップわなびや
店主 古庄 佳苗さん

※「わなびや」では、花の販売は、完全予約制になっています。

【ホームページ】
<http://www.wanabiya.com>

オーガニックフラワーの背景を伝える

「これは滋賀県の農家さんが送ってくれたハスの実、こちらは栃木県からの綿花」と一つ一つの花の背景を丁寧に説明して下さる古庄さん。オーガニックフラワーを育てている人が少なく、以前は、自ら農家に住み込みで育てた時期もあったそうです。10年以上かけて、様々な農家との縁をつなぎ、2009年12月に現在の「フラワーショップわなびや」を開店しました。



きれいなお花が地球を汚してる!?

自分のお店を開く前は生花店で7年間勤務。店内に一年中並ぶきれいな花が、農薬や栄養剤、エネルギーや水を大量に使って栽培されていることを知るうちに、もっと環境に配慮した花を届けたいと考えようになったそうです。花はどうしても見た目が重視されるため、人の口に入る野菜よりも農薬が多く使われる傾向にあります。環境に配慮した花の生産に対する認証制度*が始まったことが、オーガニックフラワーのお店を開く後押しになったそうです。*花き産業総合認証(MPS)とは、5つの環境負荷要素(農薬・肥料・エネルギー・水の使用状況および廃棄物の分別状況)を登録し審査を受けた生産者に与えられる認証。

「無農薬」にこだわりすぎない

農家への住み込みなどの経験から、無農薬・減農薬で花を育てる大変さを実感されたそうです。そこで、「無農薬」だけにこだわるのではなく、一つ一つの農家とのコミュニケーションを通じて、減農薬などの状況を把握することで、お客さまに安心して届けられるお花を取り揃えています。

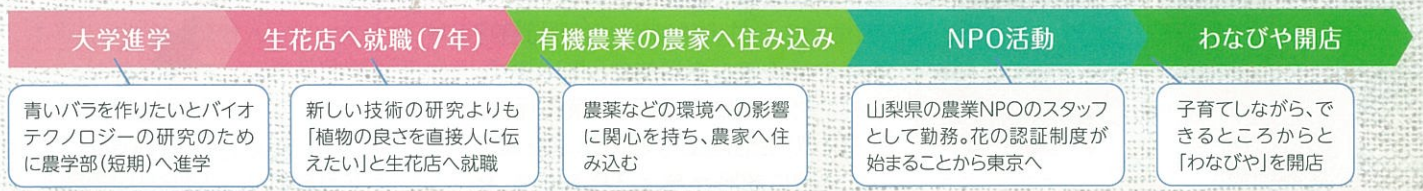


植物に触れて、良さ・楽しさを知ってほしい

お店では、リースづくりやしめ縄づくりのワークショップも開催しています(不定期)。「農業を営んでいた祖父が家でしめ縄をつくる姿を子どもの頃から見ていました。植物を活用して暮らしを豊かに彩る先人の知恵をお伝えできたら」と古庄さん。花を通して、作る人、活ける人、眺める人、そして地球環境にも豊かさを届けたい。そのために、多くの人に日常的に植物に触れ、植物の良さや楽しさを知ってほしいと、今日もオーガニックフラワーと向き合っています。



「わなびや」開店までの古庄さんのライフステージ



豊島区の環境情報誌「エコのわ」は平成20年2月22日に創刊。「日常生活から地球環境を見直す」という視点に立ち、環境に配慮した暮らしや、それを実現する方法などの情報をお届けして10周年を迎えました。最新の環境情報をわかりやすく伝えるとともに、区民の身近なエコ活動や、区内企業の環境への取り組みなどを紹介しています。今後ともご愛読くださいますようお願いいたします。

ご意見・ご感想・エコ情報をお待ちしております

はがき、メール、FAXのいずれかで、住所・氏名・年齢・性別・電話番号・アンケートの答えの他「ご意見・ご感想、エコのわで取り上げて欲しい人や場所、企業、エコに関する情報」などを明記のうえ環境政策課までお寄せください。

★アンケート

「エコのわ 21号」でよかった記事を教えてください。(いずれか1つ)

①表紙 ②クール・チョイス ③エコのわブック ④エコのわスタイル

掲載された記事・写真・イラスト等の無断転載・複製を禁じます。

「エコのわ」第21号 平成30年3月15日発行
発行:豊島区環境清掃部環境政策課 〒171-8422 豊島区南池袋 2-45-1
電話:03-3981-2771(直通) FAX:03-3980-5134
メール: A0029180@city.toshima.lg.jp
制作協力:アオイ環境株式会社



第21号は「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」の助成事業です。

